

- (8). 山本広一・吉阪道雄：兵庫県産蝶類目録(4),
兵庫生物 Vol. 5. No.1
- (9). 山本広一：兵庫県下のナガサキアゲハについて(1)
兵庫生物 Vol. 5. No.2
- (10). 白水 隆、原章：原色日本蝶類幼虫図鑑
Vol. 1~2. (保育社)
- (11). 白水 隆：原色昆虫大図鑑, Vol. 1. (北隆館)
- (12). 八木誠政：昆虫学本論, (養賢堂)
- (13). 藤岡知夫：日本産蝶類大図鑑, (講談社)
- (14). 白水隆他：原色日本昆虫生態図鑑, (保育社)
- (15). 兵庫県防災気象連絡会編：気象 20 年 報
- (16). 奥山春季：原色日本野外植物図譜,
Vol. 1~7 (誠文堂新宝社)
- (17). 牧野富太郎：新日本植物図鑑, (北隆館)
- (18). オダム：生態学の基礎 (朝倉書店)

(IWAO IWAMURA) 〒671-14 姫路市

蝶に誘われ山野を駆ける

八木 弘

春遠からず、花咲き乱れ蝶舞う季節も間近である。蝶採集家たちは、「本年こそはと其の日の来るのを待ちわびていることだろう。

蝶の採集は小さいころからと言う人が多い。私の様な60の手習いと言うか、会社の定年も間近かくなつた58才から始める者は例外かも知れない。

蝶には何の興味も知識もなく、蝶に手もふれたこともない私が、只、ひまつぶしと老後の健康のために軽い気持で家の近くの山野に捕虫網をかついで出かけたのが始まりである。

其の様な私を見かけた近所の人たちから「何をお捕りになるのですか」と聞かれ、「蝶です」と答える私に、「お孫さんにですか」と問いかえられ戸惑つたものだ。蝶の採集は子供が一番ふさわしいものかも知れない。

ともあれ最初に出かけたのは蝶の季節にはまだ早い3月18日(1972年)。其の日は4月中旬を思わせる春日和で、陽気に誘われてか、見も知らぬ蝶がちらほらと

とんでいる。しめたとばかり夢中で網を振り回せど網は空を切り、なかなか容易には網に入ってくれない。さんざん手こづった挙句、やっと三種類の蝶をものにした。こんな蝶もいるんだなあ! モンシロチョウかキチョウ以外何も知らない私は、貴重なものを手にした思いで、心わくわく家路を急ぎ早速図鑑を開き、ルリタテハ、キタテハ、アカタテハの越冬蝶であることを知り得たものだ。これが私と蝶との出会いであった。

いよいよ4月の蝶の幕あけだ。休日毎に欠かさず網をかついで出かける日々であった。キチョウ、スジグロシロチョウ、モンシロチョウ、ルリシジミと手当りしだい片端しから捕えた。日を追うにつれ、ツマキチョウ、コミスジ、アゲハチョウ、クロアゲハ、カラスアゲハ、アサギマグラ、キアゲハなど私のかって見も知らない蝶が次々に出現し、其の美しい翅の輝きにすっかりみせられ、ただ夢中でシーズン中、山野を駆けめぐる私であった。

シーズンを終り、私の蝶日誌には出動回数40余日、採集した蝶50余種が記録されていた。これらの蝶のほとんどが、私の周辺の山野に生息しているのに驚きと感動を覚えた。

それから7年、普通種であれ、珍種であれ、初めて手に入れた時の感激を忘れえず、県下一円はもとより近隣県へと足をのばし、遠くは南アルプス、北アルプスへと蝶友と連立ち、憧れの蝶の姿を求めて行脚の旅は続いている。

捕えた蝶も130種は越えただろうか? 本年も蝶の季節は間近である。蝶の姿を追い求め、深山にふみ入り、広大にして神秘的な自然の中に蝶の翅の美しい輝きに限りない喜びを感じことだろう。すでに65才を迎える私だが、まだまだ70才まではと張り切っている。

— 老骨の蝶に誘われ山あるき —

(HIROSHI YAGI) 〒678 相生市

表紙の説明

兵庫県三田市産ギフチョウ♀

採集年月日 11 IV 1974

採集者 苦木 隆幸